

12-15 資本の有機的構成の低い企業は労賃の引き上げに一層の困難が伴う 重要!!

「この部分は、「労賃の一般的な引き上げは、ほかのことはすべて変わらないとすれば、剰余価値率の引下げである。」との前提(=賃上げ分の剰余価値の減で、商品価格は不変)で、資本の有機的構成の差による個別企業への影響をみると、平均的な資本の有機的構成の企業の剰余価値率に比べ、有機的構成の高い企業の剰余価値率は高く、有機的構成の低い企業の剰余価値率は低くなるということを教えてくれる。同様に、労賃の一般的な引き下げの場合は、平均的な資本の有機的構成の企業の剰余価値率に比べ、有機的構成の高い企業の剰余価値率は低くなり、有機的構成の低い企業の剰余価値率は高くなる。これらからして、資本の有機的構成の低い企業ほど賃金の上昇に対して消極的になり、下落に対しては積極的にならざるをえない傾向を持つことは明らかだ。」

(大月版『資本論』④ P251-253B7)